

ボランティア担当の首相補佐官を務めた

辻元清美さん(51)



沿岸部に

ボランティア
アセンター
を設置する

のが大変で

した。リュックサックを背
負ってボランティアに来て
も、拠点がなければどこに
支援のニーズがあるか分か
らない。津波で建物が全部

流されたところもあり、プ
レハブを建てるところから
始めました。

現場の人たちと一緒に悩
み、しんどい思いを共有し

「現実、圧倒的に厳しい」

に厳しい現実を肌で感じて
ほしいと思ったんです。

4月23日、宮城県気仙沼
市の避難所で、仙谷さんは
「本当にご苦労をかけ申し
訳ありません」と言葉を詰
まらせていました。ストレ

た。菅さんも本当に張り詰
めていたんだなど……。

菅さんが6月11日に岩手
県釜石市のボランティアセ
ンターを訪れた時、壁の寄
せ書きに「決然と生きる」
と書いて批判されました。

ていると、中央政界の動き
は被災地とかけ離れている
と痛感しました。だから、

トに政治の限界を感じた
んじゃないかな。

菅直人首相(当時)と仙谷
由人官房副長官(同)の関
係に隙間風が吹いている、

その後菅さんから「仙谷
さん変わったんだよ。率直
にいろんな意見を言ってく
れるようになった」と聞い

た。菅さんが6月11日に岩手
県釜石市のボランティアセ
ンターを訪れた時、壁の寄
せ書きに「決然と生きる」
と書いて批判されました。
あれは、直前に漁業関係の
男性から「菅さんやめなく
ていい。やめなくていいか
ら、ちゃんとやってくれ」
と言われて気合が入ったか
らです。ああして自分を鼓
舞しなければならぬほ
ど、首相を追い込んだ政治
だったのだと思います。

と感じた時、仙谷さんに現
地を見てもらって、圧倒的

にも目に涙をためていま

回顧

震災と政治家

②

【聞き手・高橋恵子】

＝つづく